

普及活動検討会実施報告書

亙理農業改良普及センター

実施月日：令和8年2月3日

実施場所：亙理農業改良普及センター

1 検討内容

No	検討項目
1	令和7年度プロジェクト課題の実施状況について (1)気候変動に対応したいちご栽培管理技術の再構築 (2)名取市下余田Ⅱ期地区におけるほ場整備事業を契機とした営農体制の構築 (3)土地利用型法人における組織運営の安定化に向けた担い手育成
2	令和8年度普及指導計画(案)について

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	-
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	4	マスコミ	-
農業関係団体	2	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント、評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
検討課題1 気候変動に対応したいちご栽培管理技術の再構築について	4.9	<ul style="list-style-type: none">アザミウマ等の害虫は終盤発生するので、収量比較は年内だけでなくシーズン通しての方が、結果が出るのではと感じた。3か年に渡る数値目標をクリアしている点で高評価できる。今後もこのような伴走型支援を継続しつつも、自走型を視野に支援して頂きたい。他の作物についても喫緊の課題であり、これまでの栽培暦を見直すべきだ、と言う良い事例になったと思う。定量的・定性的の目標をクリアしたことをもって、今後他の生産者にも教示して行ってほしい。活動1において支援対象者ごとに内容を調整し状況が改善されていること、活動2において支援対象者全てが収量増の結果を出せていることが高評価のポイントである。新年度は新規就農を対象とするとのことなので、今年度の実績を生かして取り組んでいただきたい。	<ul style="list-style-type: none">今回のプロジェクト課題は令和6年産(令和5年秋定植)いちごが、酷暑により年内収量が大幅に減収する事態を受けて課題設定したもので、目標の設定は年内収量としておりました。 一方、いちご生産量は年内収量そのまま総収量にも連動すると考えておりましたが、アザミウマの発生時期を考慮しなければならぬことと思いますので、御意見は今後参考にさせていただきます。若手生産者が自ら考え、判断して営農活動ができるよう、今後も生産者に寄り添い、支援してまいります。プロジェクト活動でこれまでに得られた知見等を活用しつつ、指導してまいります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の異常気象における影響は、いちご栽培農家に限らず、施設園芸全般に気苦労が絶えないところであり、技術の革新を引き続き普及するとともに安定経営にも繋げていただきたい。 ・いちご栽培に対し、育苗の時期から適切な指導がされており、その成果が今現在の収量につながっているととても素晴らしいと思った。品種の検討と栽培管理など大変な事がよくわかった。投資も大事であることが理解できた。これからも適切なアドバイスをお願いする。 ・気候変動に伴い栽培技術指導、資材関係のその農業者に適した指導や育成をしたことにより収量が増加した。素晴らしい結果であると思う。今後も継続的に管理技術指導をお願いします。 ・具体的な数値が良かった。評価もまとめ方が良かった。 ・花芽分化に関する理解が深まり、適切な育苗管理に取り組めるようになったことや実践的な防除対策が行えるようになったことが評価できる。 ・8年産収量は確定していないが、現時点で定量的、定性的目標をほぼ達成し、成果が上がっており、高く評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の気候変動、夏秋期における高温は農作物全般にわたり悪影響がありますので、引き続き気候変動に対応した指導を行ってまいります。 ・今後も巡回指導や研修会等により、普及活動を進めてまいります。
<p>検討課題 2 名取市下余田Ⅱ期地区におけるほ場整備事業を契機とした営農体制の構築について</p>	<p>4. 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの支援体制を生かしながら安定的な法人経営に結び付けるよう課題整理に指導、協力を継続していただくとともに営農の部分における新技術、技術革新になるよう継続した指導、助言を求める。 ・法人設立支援だけでなく、担い手部会支援もあわせて行うことで法人化後の営農に資する準備が行われていると思う。長期的な取り組みであり、新年度も継続して取り組んでいただきたい。 ・法人化に必要な定款（案）を完成することができたことや担い手部会活動が充実し始めている点が評価できる。 ・法人設立のための定款（案）の完成や担い手部会におけるえだまめの栽培技術が確立しつつあり、高く評価する。今後えだまめ栽培における収支も見えるとよいかと思う。 ・ほ場整備事業を進めて、次年度、法人設立を予定している 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人設立、その後の法人運営がスムーズに行えるよう関係機関と連携し、支援してまいります。新技術等に関しては、引き続き情報提供してまいります。農業経営には設備投資などに多大な経費が掛かることがありますので、適切な補助事業や農業経営基盤強化準備金等の制度について情報提供するなど、法人設立後も経営指導、営農指導に努めてまいります。 ・えだまめ栽培については、引き続き実証ほを設置し、収量等調査してまいります。

		<p>ということで苦労されたと思う。今後、法人設立後の更なる経営指導や営農指導の支援をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田でのえだまめ栽培の定着並びに法人設立に向けた継続支援を頑張ってください。 ・成果は十分だと思う。令和8年度計画活動を充実させてください。 ・今の段階では、先行投資をどうすれば良いのか機械投資等の検討が必須だと思う。加えて、個人経営のカーネーション等との作業分散を踏まえながらの計画を立てて欲しいと思う。まだ、具体的な内容が見えないので今後を期待する。 ・プロジェクトとしては体制の構築までになるかもしれないが、その先の「運営」がスムーズに行くまでアシストが必要と考える。枝豆など高収益作物などは出先（販路）が大切なので、その柱を2～3つ充てることが大事と考える。 ・今後の発展を期待して評価した。また、ここ数年高温や少雨ためなのか、枝豆の作柄が良くない状況が伺えましたので、継続支援をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業・園芸総合研究所が開発したシミュレーションシステムを活用し、作業分散を踏まえながら組合へ提供してまいりたいと考えております。 ・えだまめの担い手は、えだまめ出荷組合員であり、栽培技術力が高く、機械化一貫体系により面積拡大を図ろうとしています。出荷については、JAや出荷組合の理解を得ながら進めてまいります。
<p>検討課題3 土地利用型法人における組織運営の安定化に向けた担い手育成について</p>	<p>4. 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確実に形成されている点が良い。 ・組織体制について水稻と大豆チームを分ける必要がないと思う。リーダーの位置づけに工夫が必要だと思った。例えば、Aさんは総合的に考え代表の下に置くべきではないか。 ・担い手の育成、コミュニケーション改善、労務管理など、どの組織にも必要なテーマで良い方向に向かっているの（組織によって環境が違ってその通りにはいかないが）、情報を広く周知してほしい。 ・農業者の高齢化は全国的な課題であり、対策が急がれるところであり、取組みとして評価できる。収益性を重視し雇用を生み出す地域農業の普及発展を期待する。 ・法人の抱える課題解決に向けた支援体制を今後も継続的に尽力され、運営の安定化を進めることは、今後の新規に設立する法人への参考にもなることから、期待する。 ・世代交代による法人の維持にとどまらず、若手従業員のモチベーションアップにもつながる取り組みであり、その成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の維持・発展を牽引する担い手法人の安定的な運営には、中長期的な経営計画に基づく、後継者の育成が重要な課題となっています。本取組が、地域の農業法人のモデルとなるよう、引き続き、対象法人に対して丁寧寄り添い、専門家や関係機関の協力を得ながら、適時・適切な支援に努めることで、組織体制の強化や若手後継者の人材育成に引き続き尽力してまいります。 ・他法人に横展開できるようモデル事業として継続して支援してまいります。

		<p>果は高評価に値する。新年度も取り組みを継続していただくとともに、他法人への横展開についてもあわせて検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用環境の整備意識が向上し就業環境の向上に貢献できたことや従業員の経営参画意識が高まり令和8年度年間作付計画（案）を作成できた点が評価できる。 ・世代交代に向け役員と若手従業員のコミュニケーションの向上のために、様々な手法によりアプローチし取り組んでいることを高く評価する。 ・震災以降設立した法人の役員が高齢化し、今回の担い手育成を課題とした活動により、今まで行ってきた事について若手従業員が自ら考え、役員に対し提案できる体制づくりまで発展するよう、組織内でコミュニケーションが図れたことは素晴らしいと思う。 ・若い従業員のモチベーションが上がる充実した環境整備構築に向けて頑張ってください。 	
令和8年度普及指導計画（案）について	4. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・重点活動4のスマート農業は土地利用型以外にも施設園芸も対象にしても良いのではないか。 ・令和8年度も農家の心に寄り添う伴走者として指導と支援をお願いします。 ・新規の課題はニーズにあっているし、継続の課題も必要なところなので、良いと思う。 ・地球規模の温暖化と少雨、または、集中豪雨など様々な課題難題が山積する中、農業改良普及センターの役割は、地域農業を生業とする方々にとっては大変心強いと感じている。また、農業という一次産業のみならず観光の面からも地域経済に与える影響は大きいと感じており、令和8年度普及計画を大いに期待する。 ・普及計画は、地域農業の発展と安定的な経営を根差したものになるような指導と普及を目指していただき、関係機関としての協力と連携を積極的に進めて行きたいと思う。 ・令和8年度の計画案は県の上位計画等及び2市2町の実情を踏まえた計画となっていることから、プロジェクト課題や重点活動にしっかり取り組んでいただき、良い成果につながることを期待する。 ・プロジェクト課題の目標が達成できるよう期待する。 ・いちご新規就農者への取り組みは、経営の継続するために大事な項目となるので、よろしくをお願いします。 ・重点項目の4点を重視し、更なる営農支援、経営支援につ 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度普及指導計画（案）に対して、ご理解をいただきありがとうございます。 ・ご指摘のとおり土地利用型ばかりが、スマート農業ではないので、施設園芸等生産者も対象とはなります。しかしながら、施設園芸は環境制御装置等とセットで組み込まれている場合が多く、改めて対象としないと考え、対象に入れておりませんでしたので、ご理解をいただきたいと思います。 ・来年度も、普及センターの4つの重点活動項目に従い、農業者と寄り添い伴走しながら、農業者の経営安定・発展に尽力してまいりますので、関係機関の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

		<p>いて継続的な活動をお願い致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手、新規就農のモデルとなるような結果に期待する。 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの対象にならないと、このような「課題と対策」を通して良い結果が出ていることを知る機会がないので、個々でも試せるチェックシート、フローチャートなどに落とし込んで、早く周知してもらえるとありがたいと思う。 ・いちごの輸出に関する資料提供に感謝する。昨年、県の園芸推進課主催の施設園芸研修会で農研機構の生育・収量予測ツールの紹介があったが、ツールの使い勝手等が分かれば教えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト課題は、喫緊の課題として課題の背景から定性的目標や数値目標等を設定し、取り組んでいるもので、その成果を検討委員の皆様にご覧いただきありがとうございます。その他の普及センター（重点活動・一般活動）の取組状況については、毎月の職員会議等で相互に、活動をチェックしながら、情報共有しております。また、新規就農者等への支援についても、市町と連携しながら進めており、外部の方々への周知については、普及ブログという形で、管内の普及活動の成果を随時発信していますので、そのブログ等をご覧いただきますよう、よろしくお願い致します。 ・農研機構が開発した「NARO 生育・収量予測ツール」は、現段階でオープンソースになっておらず（有償とのこと）、また当県の主力品種「もういっこ」「にこにこベリー」に対応していないことから、現時点で当所での利用はございません。 大変申し訳ありませんが、御提供できる知見を持ち合わせておりません。

1（不十分）～5（十分）